



AUE News

2011年2月15日

第 10 号



編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

目次

- 行事予定(2月16-28日)
- トピックス
 - ・中学生が附属図書館で職場体験
 - ・村瀬さんがスケッチ展を見学
 - ・附属岡崎中の山本教諭が文科大臣表彰報告
 - ・ガラスでデキルコト展
 - ・愛教大の造形展
 - ・入学志願者 15%増加
 - ・安武教授が最終講義
 - ・タイ協定校の学生が本学を短期訪問
 - ・学生企画のプレゼンテーション
 - ・尾鷲高校の生徒が学校見学
 - ・もちつき大会
 - ・ランチコンサート
 - ・メンタルヘルス研修会
- お知らせ・報告・投稿
 - ・「数検」グランプリ奨励賞を受賞
 - ・卒業制作展など開催案内

行事予定(2月16-28日)

- 16日(水) 教育創造開発機構委員会 (9:30～ 第五会議室)
代議員会 (13:00～ 第五会議室)
教員人事委員会 (代議員会終了後～ 第五会議室)
財務委員会 (16:00～ 第五会議室)
- 17日(木) 安全衛生委員会 (16:40～ 第五会議室)
- 18日(金) 役員会 (13:00～ 学長室)
地域連携会議 (15:00～ 第三会議室)
- 22日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 25日(金) 個別学力検査前期日程 (～26日 第一共通棟ほか)

トピックス

中学生が附属図書館で職場体験(1/31-2/4)



知立市の中学2年生の男子生徒2人が、1月31日(月)～2月4日(金)、本学附属図書館で職場体験を行った。

2人は本が好きで図書館司書の体験を希望。中学校から本学附属図書館へ要請があり、受け入れた。毎日、自転車で片道40分の距離を“通勤”し、午前9時～午後3時30分まで“勤務”。図書館司書の指導の下で、書類整理、パソコンでの目録変更、貸し出しカウンターでの手続きなど図書館のさまざまな業務を体験した。

最終日の4日には1週間の職場体験を振り返り、「図書館では意外にパソコンを使った仕事が多かった。将来の参考になりました」「仕事は大変だなと思いました」などと緊張した面持ちで感想を話した2人だったが、最後は「休憩時間に本が見られてよかった」と笑顔見せ、満足そうだった。

村瀬さんがスケッチ展を見学(2/2)



キャンパスの風景画などを本学に寄贈した安城市のスケッチ画家、村瀬康司さんが2月2日(水)、附属図書館2階のアイ♥スペースで開催中(18日まで)の「村瀬さん第2回大学スケッチ展」を見学した。並べられた14作品には学生、教員など人物が多く描かれており、久しぶりに対面した自らの作品を一つひとつ鑑賞。「自分で言うのも変だが、人の動きがいいでしょう。風景が中心だったが、これらの作品では、たくさんの人

物を描かせてもらい、人の描写が上手になった気がします」と目を細めていた。

村瀬さんはこれに先立ち、大学会館で開催されていた造形文化コースの卒業制作展を見学。陶芸、ガラス、金工、染織の各専攻の学生が制作した力作に、村瀬さんは「これはすごい」「どうしたらこんなものができるのかなあ」などと感嘆。数千枚とも思われる硬貨のような陶土を鉢状に積み上げたオブジェでは制作した学生に「色はどの段階でつけたの」「ひび割れしていないのが不思議だね」「制作中に失敗はなかったですか」などと質問、興味深そうに見つめていた。



附属岡崎中の山本教諭が文科大臣表彰報告(2/4)



本学附属岡崎中学校の山本武志教諭が「平成22年度文部科学大臣優秀教員表彰」を受賞し、2月4日(金)午前、役員室を訪れて理事らに報告をした。

山本教諭は、平成元年3月に本学小学校教員養成課程理科生物教室を卒業。同年4月から豊橋市公立の小、中学校で勤務、平成17年4月から本学附属岡崎中学校に勤務し、現在は同校の主幹教諭を務めている。これまでに、専門教科の理科のみならず生活科など他教科や特別活動についての的確な指導、多くの刊行物の原稿執筆、三河地区の研究集会に向いて現職教育講師をこなすなど活躍。教員歴21

年余の間に、豊橋市教育研究論文優秀賞を3度(平成8、11、15年)受賞するなど、現場のリーダー的な存在と評価され、今回の文科大臣表彰に至った。

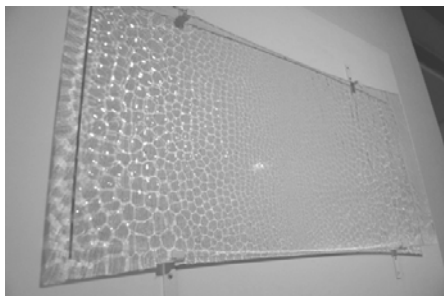
表彰式は1月31日(月)に東京の日比谷公会堂で行われ、全国の表彰対象者879人の中から3人の代表の1人に選ばれ、トップバッターで登壇し、賞状を受け取った。

この日は、賞状を手に役員にあいさつ。折出健二理事(総務担当)、岩崎公弥理事(教育担当)、村松常司理事(学生担当)が出迎え、これまでの努力を労い、祝福した。山本教諭は「特に大きなことをしたわけではありませんが、やってきたことを評価してもらって嬉しく思います。これからも、今までどおり周りの先生方と一緒に頑張っていきたい」と笑顔で新たな決意を語った。

ガラスでデキルコト展(2/5-13)

本学でガラス工芸を学ぶ大学院生、研究生の作品を紹介する「ガラスでデキルコト展」が2月5日(土)～13日(日)、刈谷駅前商店街のギャラリー「スペースAqua ふれあい交流広場」で開催された。

作品展には、ガラスコースの研究生の天野美美さん、大学院生の平本友絵さん、渡邊美沙さん、



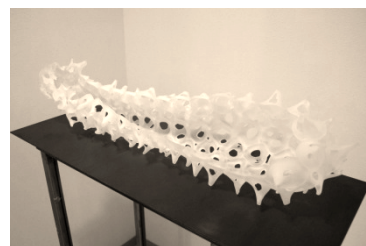
磯和真帆さん、相馬あゆみさんが参加。これまで創作した作品と、今回の展覧会に向けて制作した作品、計9点を出品。

2階の展示スペースには、雨粒のようなガラスのパーツを高く積み上げたオブジェ、波打つ水面の文様を表現したような板ガラス、動物の体からイメージした球体に色ガラスのパーツを貼り合わせた作品など、形も作り方もさまざま。



ユニークなガラスの造形に、見学者が見入っていた。1階では、同コースの佐々木雅浩准教授の作品の展示、学部学生が制作したタンブラーやアクセサリーなどの販売コーナーも。

「ガラスは他の素材と違って、透き通るような感じと、光を当てるとキラキラするが魅力」と出品者で展覧会のま



とめ役の平本さん。「ガラスを始めたころは、難しいと思いました。ガラスを釜で溶かすので、夏は工房内が45度。冬も汗びっしょりですが外に出ると寒いので、制作は過酷です(笑)。今は体になじんで、ガラスがないと作品ができません。柔らかくなれば伸ばしたり、膨らませたりして、自分の意志で形ができるのが嬉しい」と制作の喜びを語った。



6日(日)には、ワークショップ「オリジナルグラスをつくろう！」も開かれ、一般の親子連れが参加。学生が学内の工房で作ったグラスに子どもたちが絵や文字の形のシールを張って、特殊な砂をかけて磨りガラスにするオリジナルグラスづくりに挑戦。ガラス工芸の楽しさを体験した。



愛教大の造形展(2/5-13)

本学現代学芸課程造形文化コース陶芸専攻の卒業生と現役の学生による「愛教大の造形展」が2月5日(土)、瀬戸市の愛知県陶磁資料館本館1階ギャラリーで始まった。13日(日)まで。

同展は造形文化コース中島晴美研究室の在学学生、卒業生が「土の造形作品」をキーワードにしたグループ展として2007年から開催し、5回目の今回は20人が、最近1年間に制作した60点を出品した。急須や湯飲みなど日常のための作品、うろこ状の模様で覆われた生命体を思わせる作品、「頭を旋る歌」を表現した作品など、個性あふれる創造的な作品が会場いっぱい並び、来場者の目を楽しませた。



出品者の造形文化コース4年の森本靖菜さんは「陶芸という機能のあるもの、使いやすいものというイメージがありますが、ただ使いやすいだけでなく、個性が出ています。陶芸の新しい形です」。同じく松波真優さんも「硬かったり、薄かったり、柔らかかったり、土の魅力を表現する作品を考えました。さまざまな形を見てほしい」と見どころをアピールした。

志願者 15%増加(2/7)

本学の個別学力検査(2次試験)出願が2月2日(水)で締め切れ、志願者数・志願倍率が

7日(月)に確定した。前期日程(2月25日)と後期日程(3月12日)合わせた志願者数は3701人で、前年(3216人)より485人、15%増加となった。

前期日程は募集人員559人に対して志願者数1713人と、3.1倍(前年2.8倍)、後期日程は207人に対して1988人と、9.6倍(同8.0倍)と、いずれも前年より志願倍率がアップ。

中でも、現代学芸課程国際文化コースの後期日程は、30人の募集に456人が志願し、15.2倍(同11.1倍)と高い倍率。また、今年は後期日程の教育科学選修が16.5倍(同10.3倍)、前期日程の教育科学専攻が5.0倍(同1.8倍)と、教育科学への志願者も増加している。

志願者数増加の理由を入試課では「現在の社会状況もあって、教員など安定した職業を目指す受験生が増えているからでは」と推定している。

志願者数・志願倍率の確定数は大学ホームページの「入試出願状況」を参照。

http://www.aichi-edu.ac.jp/exam/files/shutsugan_110207.pdf

安武教授が最終講義(2/7)

今年3月に定年退職する安武知子教授(日本語教育)が2月7日(月)午後、第二共通棟431教室で最後の講義を行った。

安武教授は1974年に本学の外国語教室の教員に着任し、当時、本学にはなかったLINGUISTIC(日本語学)を導入。以来、総合科学課程、国際理解教育課程、現代学芸課程での授業を担当してきた。

最終講義では「言語学の愉しみ」と題して、「なぜ言語学をやるの」「世界の言語の多様性」「人間言語の普



遍性」などについて解説。「いろいろな言語に触れると楽しみが増す、人生を豊かにする」と、3コマ漫画や「ことば遊び」も使いながら、言語学を学ぶ楽しさを紹介した。

この日は、日本語教育の学生をはじめ、卒業生も駆けつけ、40人余が聴講。安武教授の、優しく静かな口調で展開される言語学の講義に聞き入った。

最後は、高橋美由紀教授(外国語教育)、教え子でもある上田崇仁准教授から花束が贈呈され、学生の拍手の中で最終講義は終了した。



タイ協定校の学生が本学を短期訪問(2/7-9)

タイにおける本学の学術交流協定校、ラチャパット・スラタニとラチャパット・チェンライからPomhjuj Sukunya(写真左)さんとOnsa Supannika(同右)さんが2月7日(月)、来学した。この訪問は、国際交流基金関西国際センターが海外の大学生を対象に実施する6週間の訪日研修の一環で、2泊3日の日程で協定校を訪問し、実践的な日本語学習や日本文化理解を目的としたもの。

初日は、研修先である大阪から到着後、早速、学内施設や大学周辺施設の見学などを精力的に行った。翌8日(火)には、担当教員である北野浩章准教授(日本語教育)や本学に留学中のタイ人留学生、昨年ラチャパット・スラタニとラチャパット・チェンライで日本語教育実習を行った本学の日本人学生らと共に、松田正久学長と村松常司理事(国際交流センター長)を表敬訪問。



「タイでは3年間日本語を勉強しています。愛知教育大学に留学し、日本語について色々勉強したいです」というPomhjujさんとOnsaさんの熱意に対し、松田学長からは「交換留学生として本学に留学できるよう、ぜひとも頑張ってください」と激励の言葉が贈られた。最終日には、日本人学生と名古屋市内を見学。同じ大都市でありながら大阪とはまた違う文化を持つ名古屋を見学し、日本文化の多様さを肌で実感した様子だった。また、今回2人は日本人学生宅でのホーム

ステイも体験。同年代の日本人学生の日常を垣間見るこの体験は、現代日本文化の実際を知る、またとない機会となった。(教育創造開発機構 国際交流センター 宮内春菜)

学生企画のプレゼンテーション(2/8)

「若者に新聞を購読させるには」というテーマでプレゼンテーションをするユニークな授業が2月7日(月)、第一共通棟で行われた。美術選修・専攻の2年生が対象の「デザイン実技Ⅱ」で、学生が半年かけて考え、練り上げた企画を最終授業で発表した。

1チーム5人で、6チームが各15分の持ち時間に、それぞれの企画を説明した。「新聞女子」をキャッチフレーズにしたチームは、新聞のイメージのアンケート調査の結果を基に、持ち運びできる新聞、女子割り(引き)、新聞を読む女子のプロモーションビデオでPRするなど、さまざまな方法で購読につなげる策を提案。他にも、朝ご飯を食べながら新聞を読む「朝メシンブン」、入学祝いに下宿生の親が新聞購読を贈るなど、斬新な企画が紹介された。

指導した富山邦夫教授(美術教育)は「プレゼンまでのプロセスを考えることがデザイン。企画のプロデュースを学んでほしい」と狙いを話した。「今の大学生の多くは新聞を読まない。3年生にはNIEの授業もあり、その前に新聞を取り上げたかった」とも。

この日は、新聞数社の記者が取材に訪れ、学生たちのプレゼンに興味深そうに聞き入っていた。



尾鷲高校の生徒が学校見学(2/9)



三重県立尾鷲高校の高校生たちが学校見学のため、2月9日(水)午前、本学を訪れた。

一行は2年生42人と教員2人で、午前11時過ぎにバスで本学に到着。法人運営課の職員の案内で第一共通棟106教室へ移動し、職員による本学の学部や施設などの概要の説明に耳を傾けた。その後、大学生で賑わう第一生協

の食堂で昼食をとり、学生の雰囲気をちょっぴり体感。

食事の後は、出発までの30分ほどの間、キャンパスを散策。この日、実施された教職員組合と生協が共催した恒例の「もちつき大会」に飛び入り参加して、元気よく杵で餅をつく高校生たちの姿も見られた。また、附属図書館の展示スペースでは音楽選修・専攻の学生によるランチコンサートも開催されて、卒業を控えた学生らのピアノやヴァイオリンの演奏、声楽の独唱などにもじっと耳を傾けていた。



もちつき大会(2/9)



教職員組合と生協が共催する恒例の「もちつき大会」が2月9日(水)正午~午後1時、第一生協前で行われ、多くの参加者でにぎわった。

もちつき大会は、本学の自然観察園で収穫された餅米を教職員や学生、みんなについて食すイベント。本学での教育・研究の発展と働きやすい職場環境、学園生活の充実を願って、例年、後期の授業が終わった補講期間に開催されている。

今年は例年より多めの5升のもち米を大学から購入して準備。専用の蒸し器で蒸した熱々の餅米を石臼に移し、教職員や学生が次々に杵について、餅が完成。待ち構えた職員が、つきたての餅を一口大に丸めて、皿にあんと黄粉を添えて配布すると、たちまち順番待ちの行列ができた。

もちつきを初めて体験したという女子学生は「思った以上に杵が重くて大変でしたが、その分、おもちが美味しく感じます」と笑顔でできたてのもちを頬張っていた。



ランチコンサート(2/9)



音楽選修・専攻の学生による「ランチコンサート」が2月9日(水)午後零時30分から附属図書館のアイ♥スペースで開催された。

季節ごとに開かれる恒例のコンサート。今回は、「冬の特別演奏会」と題して、卒業を控えた4年生から選抜された成績優秀者4組が登場し、これまで学んだ成果を披露した。

出演者と演目は、①昌山佐和子さん(ピアノ独奏)「J. S. バッハ/半音階的幻想曲とフーガ BWV903」②山本惇基さん(作曲)「小さなヴァイオリンソナタ」、田中康太郎さん(ヴァイオリン) 澤麻由奈(ピアノ) ③安藤朗広(ホルン独奏), 桑山美早紀(ピアノ)「R・シュトラウス/ホルン協奏曲 第1番より第3楽章」④沓拔沙織(独唱)「ヴェルディ/オペラ「運命の力」より《神よ、平和を与えたまえ》, オペラ「アイダ」より《勝ちて帰れ》。いずれも練習を重ねた迫力ある演奏で、来場者を楽しませた。



終演後、林剛一教授(音楽教育)は「今年の4年生はみんな頑張っていて、レベルが高かった。音大、芸大の学生と比較しても遜色ない出来」と褒め称えた。



メンタルヘルス研修会(2/9)

本学安全衛生委員会主催の「平成22年度メンタルヘルス研修会」が2月9日(水)午後1時30分~3時、第五会議室で行われた。

健康問題のメンタルヘルス対策として開催される研修会で、今回のテーマは「職場メンタルヘル스에役立つ最近の話題-『うつ』を中心に-」。講師は本学産業医の岡田暁宜准教授で、教職員約50人が参加した。

講義に先立って、同会委員長の折出健二理事(総務担当)が「現代の誰もがかかるかもしれない、うつ。働きやすい職場であるためには正面から考えるべき問題です。参考にいただき、少しでも視野が広がれば」と開催の狙いを話した。



講義では、岡田准教授が「皆さんから提案していただき、最近のメンタルヘルスの話題でもあります。大学という職場では特に簡単に対処できない問題」と話し、1980年代以降の職場

のメンタルヘルスに対する政策の流れ、91年以降のバブル崩壊後の職場環境、職場でみられるうつ病について解説。「男女別では女性が多く、都道府県別では愛知県は多い方。うつ症状が長くなると、神経症化し、新型うつになる」など、現状や病態についても説明した。

参加者から、「うつ病になった時、職場復帰をどういうタイミングで判断するのか」「復帰するのは、元いた職場に、が原則なのはなぜか」などの質問も出て、職場でのメンタルヘルスへの関心の高さを伺わせた。

お知らせ・報告・投稿

「数検」グランプリ奨励賞を受賞



実用数学技能検定「数検」を継続して活用したとして、日本数学検定協会から本学へ「『数検』グランプリ奨励賞」が、1月21日（金）に授与された。「奨励賞」は新たに設けられ、3年以上にわたって「数検」を連続して実施し、合格率が50%以上などの選考基準をクリアした団体が対象となっている。

本学では2007年から「数検」の団体受験を続けており、年3回（2月、6月、11月）実施、毎回20人以上が受験している。受験者は情報教育課程、中等・数学専攻、初等・算数専攻、初等・数学選修、情報科学コースなどの学生や大学院生、附属高等学校生徒ら。2009年に本学は団体賞の「金賞」、数検を活用した数学指導で成果を上げたとして安本太一准教授（情報教育）ら教員3人が個人賞「生涯学習功

労賞数学部門」を受賞。

安本准教授は「今年の2月でちょうど4年。長くやってきたことが評価された。これも大学や附属高校の先生方の支援があっただけです。今後も学生たちの希望があれば、これまで通り続けていきたい」と賞状を手に喜びを語った。

卒業制作展など開催案内

◆卒展—書道専攻8期生・書友会

2月15日（火）～20日（日）9:30～19:00（最終日は16:00まで）入場無料。
名古屋市博物館〈Tel.052(853)2655〉
・書道専攻・書友会の卒業生、書友会4、3年生の作品、賛助作品を展示。

◆卒業・修了制作展—美術・造形文化・大学院美術専攻

2月15日（火）～20日（日）9:30～19:00（最終日は17:00まで）入場無料。
名古屋市民ギャラリー矢田〈Tel.052(719)0430〉
・美術、造形文化、大学院美術専攻の卒業・修了生の作品を展示。

◆第2回愛教大アカデミックカフェ

3月1日（火）17:00～18:15 参加無料。
本部棟3階「第五会議室」
・前田勉教授が「江戸時代の読書会読」について講演。

編集後記

美術実習棟ガラス工房の入り口に“100円ショップ”があります。緑色の棚にガラスコースの学生たちの作品が置かれていて、昨年秋に知ってから、棚をのぞくのが秘かな楽しみです（もう秘かでなくなっちゃいますが…泣）。入手した一輪差し、コップ、文鎮などはどれもオフィスで活躍中で、お気に入りです。ガラス工芸が学べるのは本学の魅力でもあります。制作材料費がそれなりにかかり、一部は学生の負担になっているとのこと。作品購入でささやかながら応援できればと、展覧会を取材して思いました。これからもショップに通います。ガラスコースの皆さん、素敵な作品を創ってくださいね。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二